

第9回 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2022年10月21日（金） 10:01～12:14	
開催場所	町田第三小学校 図書室	
出席者 (敬称略)	委員	末吉委員、渡邊委員、高柳委員、永山委員、村田委員、白石委員、日高委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中湊委員、小原委員、本城委員、◎若月委員、望月委員、大谷委員 (◎会長)
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、児童青少年課
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 第8回基本計画検討会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1説明）

2 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会報告書（案）について

新たな学校推進課 （資料2-1、2-2説明）

3 新たな学校づくりに伴う学童保育について

児童青少年課 （資料3説明）

委員

娘は今4年生。本町田小学校の学童で1か月だけお世話になった。あまりの人数の多さに対してスペースが全くなかった。本当に密密状態で、これで管理してもらえるのかなど。子ども同士でけんかとかも絶えないと思うし、まだ1年生だと、ほかの幼稚園、保育園、または引っ越してきて初めてそこで会うお友達とうまく仲よくなれるのかなという不安があった。1か月様子を見たが、転職を決意し、1か月で退所した。

新しい学童保育については、ぜひそのスペース面や児童1人当たりに対する監督者、指導員の数なども検討していただきたい。

あとは、やはりお弁当の問題。夏とかの場合、暑いと、お弁当もかなり傷む心配があるから、その辺の管理するスペースなどをつくっていただくこともぜひ検討をお願いしたい。または、お弁当も家庭から持っていくのもかなり負担なので、もう少し安心しておいしく食べられるお弁当を業者さんから簡単に購入できるような制度を検討してほしい。

児童青少年課

まずスペースについては、国が示している基準があるので、それにのっとってスペースは確保している状況。現状、共働き世帯が非常に増えている中で学童保育クラブの人数が多くなっている状況はある。

今後、新たな学校については、学童保育クラブの入会希望者数を基に設計をしていくということで教育委員会と連携を進めているというところをお伝えしたい。

昼食の管理については、保護者の方から同じような要望をいただいている。こち

らも育成スペース確保の関係等も少し関わってくるところがある。管理をできる場所についても要望もあるので、スペースの確保ができるのかということも教育委員会と連携をして検討していきたい。また、昼食の提供も、課題として認識しているが、現状ではこのような状況のお伝えしかできないことをご理解いただきたい。

委員

学童のスペースはここだけというふうに区切ると、やはりそれは今の人数を想定していて、万が一、それより増えた場合とかに、今度は対応できなくなってくると思う。何か設計として、学童のスペースはあってもいいが、従来的人数より増えた場合に、例えば学校の施設を活用できるようにするとか、放課後の時間は、先生方が使っている場所もあると思うが空き教室もあるかなと思うので、学童のスペースとして、ここまででは使えるよという柔軟な対応ができるような形になっているとすごくいいなと思った。

それとともに、定数以上の申請があった場合に選考を行うということで、やっぱりそれで落とされちゃう子の行き場所がなくなることがすごく心配。そうならないためにも、今言ったような学童のスペースにプラスアルファで使える柔軟な場所が欲しい。

もう1点。「まちとも」との連携について具体的な案があるのかお聞きしたい。学童も「まちとも」も子どもの放課後という大きなくくりで見るとすごく大事な居場所になっていて、そこが、学童だからこれができるとか、「まちとも」に来ないとこれができないとかというの、何か子どもの放課後設計という意味ではちょっともったいないなという気がしている。どっちのリソースも上手に生かした放課後づくりができると、学校の施設をつくる時にそういううまくリソースを生かせるような仕組み、ソフト面でも考えられるといいなと思う。

施設課

学童保育のスペースについて、新しく建てる学校では、専用のスペースと今お話があったように、人数が増えたり減ったりするときに考えて、多目的室のような教室を保育スペースとして共用することや場所の配置も含めて、できるだけスペースにゆとりがあるような形で使える方向を考えている。

「まちとも」との連携についても今後設計していく中で、どういう形で配慮していけるか考えていくことになると思っている。

委員

現状、国の指定基準にはのっとって学童保育スペースを確保されているということだったが、基準を超えているような学校はないと認識でよいか。

児童青少年課

基準を満たすというところと裏表になるが、基準を満たすためには、高学年も含めて全員が入れないような学童保育クラブも実際ある。

委員

指導員の方たちの執務スペースも含めてという基準か。

児童青少年課

育成スペースという呼び方をしているが、子どもたちがいる場所というのが、1人あたり1.65平米という基準がある。執務スペースではなく、子どもたちの居場所ということが基準の根拠になっている。

委員

町田第三小はかなり厳しい状況で学童をやられていると思うが、いわゆるP T A

が利用している部屋と学童の指導員さんが利用する部屋が今混在しているような状況。直営じゃないというところで、なかなか行政のほうに声が届いているかどうか分からないが、現状、PTAとのスペースの利用の仕方について、やはりいろいろ困難が生じているというのを聞いている。

そういうのも含めて、先生方は子どもたちを見ていく中で、やはり当然執務をするスペースは重要になってくると思うので、その辺も踏まえた上でスペースの確保は考えていただけたらと思う。

児童青少年課

執務スペースについては、各学童保育クラブで職員の専用的な事務スペースは整備している。町三小は、おっしゃるとおり、今、PTAと共有になっていることは課題としてこちらでも認識しており、今後整備する予定ではありません。

新たな学校づくりにおいても、そこは教育委員会と連携して、職員の待遇に適したスペースというのでも検討していきたいと考えている。

委員

うちは3人学童に入れていた。長男のときがすごい学童の人数が多くて、それぞれロッカーを2人で1つ使う、かけるところも、言ってしまえば本当に同じところに幾つもかけるみたいな状況だった。ただ、そのときは職員の数も多かったのか、何もトラブルがなく統制が取れていた。低学年をメインに見る職員の方には、やんちゃ盛りの子たちなので職員の数はずごく大事で、やっぱりそこに目が行き届かなくなっていくと崩壊していくと思う。

結局、その問題が出た時の保護者のクレーム先となると、学童の職員の方になってしまう。やはり3校が1つになるという、多分、学童に入る子たちはたくさんになると思うので、場所の確保と職員の数確保というのはすごく大事だと思うので、その辺の検討をしっかりとっていただきたいと思う。

児童青少年課

おっしゃられたことはこちらでも重要と認識している。1人当たりの面積基準や職員の配置について、今後も基準に沿って適切に整備していきたいと考えている。

委員

4番の安全・安心な登降所についてだが、今現在、本町田小学校は学童の保護者の迎えの問題で、多分相当クレームが入っていると思う。あちこちに貼り紙で書いてあっても、やはり時間的にどうしても暗い時間でもある。自転車では後ろに乗せられない。では、車で迎えに行こうとなってしまうのは、もう必然的なのかなと思う。これから学区域の範囲もかなり広範囲になって、下校するにも暗くなってから、じゃ、保護者と一緒に歩いて帰りましょう、最大7時ですなんて言っていたら、帰るときには8時とかになってしまっただけで翌日の学校にも、子どもの健康面にもよくないのかなと思う。その辺のスペースやどのくらいの割合でつけようと思っているか、教えていただきたい。

児童青少年課

車でのお迎えの関係は、市内の他のクラブでも話として出ている。こちらでも検討課題。保護者の方が車で送迎する割合も増えてきているのかなとも思うので、今後は車での送迎ということも学童保育クラブにおいて実際に行われていることについて検討していかななくてはならないところではある。

また、送迎ができるような環境を整えていく方針で進めていくことになったとき

には、教育委員会と連携をして、送迎のためのスペースを確保していけるか検討を進めてまいりたい。

委員

新しい校舎にできる学童は、当然今みたいないろんな問題を十分配慮したスペースなり、施設がというのは多分そうなるだろうとは思う。その前の段階の東小と本小が一緒になったときに、本小は今の段階でも物すごくきつきつという感じだというお話しもあったが、そうなったときに、例えば高学年の扱い、本小だけだったら当然利用できたであろう高学年だとかが、去年までは行けていたのに行けなくなるとかというのは、保護者からすると、仕事の関係なんかでも大変影響があったりすると思うので、その辺のところはぜひ配慮していただきたい。

施設課

本町田東小と本町田小が2025年度に一旦統合して、今の本町田小の校舎で3年間、子どもたちが過ごす中で、学童のスペースも教室のスペースも含めて不足がないようにしなければいけないと考えている。今、学童に入っている児童が、学校が統合したときに急に入れる人数が減るとか、そういったことがないように学童の担当者に、どれぐらいの加入児童がいて、どれぐらいのスペースが必要なのか確認するなど、そういったことにも配慮をしながら施設整備をしていきたいと考えている。

4 特別支援学級等の設置（新たな学校づくり）について

教育センター (資料4説明)

新たな学校推進課 皆様からご質問をいただくまえに、本日欠席されている委員からいただいたご意見を紹介したい。

まず1点目として、本町田東小学校と本町田小学校が統合となる2025年度については、本町田小学校の特別支援学級の子たちは、特別支援学級同士の合流がないのでそこまで大きな影響はないのかなと考えている。ただ、本町田東小学校には特別支援学級が現状設置されていないので、本町田東小学校の児童はあまり特別支援学級が本町田小学校にあるということを知らないと思うので、事前に特別支援学級のことを伝えるなどして相互理解が進める状況を作れるといいなと思った。

2点目として、新しい学校をつくるときの配置なども特別支援学級と通常の学級との位置関係などのことも検討材料として捉えていただきたい。ただ児童一人一人個性が違うので、どのような配置がよいということは大変難しいとは思っている。

最後に、特別支援に詳しい先生が引き続き新しい学校にも残ってもらえるような配慮をしていただきたい。

以上3点、紹介させていただいた。

委員

単純な質問だが、弱視、難聴、言語の通級指導を本東から別の学校に移転する理由としては、学校がなくなるからか。ほかに何か理由があって本小にしない、新しい校舎に戻さないのか。

教育センター

本町田東小学校が本町田小学校の敷地内に仮設で移転した際、スペースの関係も考え、十分な指導ができる体制を整えるということで、別の場所に一度移設する

形とする。その後はまた移設で戻すということではなく、一度移設したので、そのままその新たな場所で継続して指導できればということを考えている。

委員 新しい学校に知的と情緒の固定級を置くということだと思う。今現在、町三小などが持っているサポートルームの拠点校、これについては新設校には戻さない、または、サポートルームの割当て自体を全部考え直すのか。先ほどあったが、どの方向なのかを確認したい。

教育センター サポートルームの拠点校等は、なかなか利用者数の推移が読み取れないというところで検討中になります。詳しく分かり次第、また改めてご説明したいが、必ずどこかには拠点校を設置しなければならないので、サポートルームの指導のスペースとしてはしっかりと確保していきたいと考えている。

委員 「担当教員が市内小学校にタクシーで巡回指導を行っています」と書いてあるが、これは、先生方が移動するのも電動自転車とか、皆さん工夫されて移動されている。雨の日とかはしょうがないと思うが、一般市民としてなぜタクシーなのか理由をお聞きしたい。

教育センター 通級指導学級の弱視や言語の学級というのは、一度に指導するための教材が物すごく多い。また、1日で指導するための学校を移動するということがあるので、申し訳ございませんが、自転車で移動していると指導時間に間に合わないということもありえる。できる限り迅速に学校に行って子どもの指導のためにということで、そういう形を取らせていただいている

5 路線バス通学における安全対策等について

新たな学校推進課 （資料5説明）

〔 ワークショップ 〕

Aグループ 先に2025年度の本町田東小学校の方から本町田小学校に行く時点での結果を発表します。

まず、「藤の台団地バス停」から「原田向バス停」に行くことを考えた時に、バス停まで行くルートとして、藤の台団地や商店街の中を突っ切って向かうというのが一番近いところにはなるので、団地の方々のご理解等を得ながら利用することができないかなというご意見。

あとは、団地の中にある大きめの車も取り抜かれる道を通っていく素直なルートが考えられるんじゃないかということをお話しもあった。

続いて、バスルートについては、「今井谷戸バス停」から「ひなた村バス停」に行くバスのルートと「今井谷戸バス停」から「原田向バス停」に行くバスルートは両方あるが、「今井谷戸バス停」から「原田向バス停」に行くほうが現実的なんじゃないかというご意見はグループで統一だったと思う。ただ、「原田向バス停」に向かう「今井谷戸バス停」のところに行くまでは、今井谷戸の交差点の歩道橋がそちら側には

ないので、横断歩道を利用するしかないという部分は気になるという意見。

「原田向バス停」については、特に帰路の部分が、本町田小前の横断歩道を通る指導等が必要であるという意見があった。ただ、ここの箇所は、朝、いつも見守りの方々に立っていただいているポイントでもあるので、引き続きそういった方々にバスの乗り降りも見守りのご協力をお願いできればなお安全が確保できるのではないかという意見もあった。

続いて、本町田東小学校の場所に新校舎がたつてそちらに向かって通学する2028年度については、まず、本町田わかさ保育園の付近にお住まいの児童がどこのバス停を使うかというところを話したが、やっぱり歩いたほうが早いんじゃないかという意見もあった。「養運寺バス停」を利用して「藤の台団地バス停」に行つて学校まで歩くよりも、直接歩いたほうが早いんじゃないかという意見も挙がった。

「養運寺バス停」に向かう際には裏道は一方通行の道路があるので道路の安全性が気になるという意見もいただいた。

あとは、総合的なバスの利用に際して気になるというところで家庭内などのルールについて多く意見をいただいた。例えば、定期券を忘れてしまった場合、バスが遅延している場合、バスに乗り遅れてしまった場合、定期券と同様だが、家の鍵をなくしてしまって学校に戻ってしまう児童もいるとか、子どもが自分の判断でその日その日に判断することって難しいと思うという意見があった。何かご家庭でのルールとして、忘れ物をしてしまった場合はこうする、バスが遅延で来ない場合はこうするといったところもバスを利用する際は事前にご家庭等でお話いただく必要があるという話があった。

学校側からの視点として、バスを利用するお子さんには学校側からも乗車マナーなどの指導が必要になるんじゃないかというお話をいただいた。

ご家庭や学校側も考えられるケースを想定しながら、そういったところを何か子どもたちに伝えていくというところが必要なんじゃないかというお話を多くいただいた。

Bグループ

まず2025年度ときについては、「藤の台団地バス停」で乗るときには、団地の中を突っ切るような道を通るよりは、普通の歩道と車道が分かれているところを通ったほうがいいんじゃないかという話があった。今井谷戸以北に住む子たちは、恐らく「今井谷戸バス停」まで行っちゃったほうがいいという話があったが、このバス停に行くまでには歩道橋がないので、横断歩道を渡ることになる。バスが来ちゃって、焦って渡っちゃうということも想定されるので、今、旗を振っていただける方にブロックしてもらおうとかで急な駆け込みみたいなものを防いで、なるべく事故がないようにしたほうがいいたろうという話があった。

薬師池あたりに住んでいる方のもう一つのルートとして、最後、「原田向バス停」で下車するというルートを実践的には選ぶのではないかとこのところで、「四季彩の杜西園バス停」から「ひなた村」で下車するよりは、薬師中学校前を通りながら「藤

の台団地バス停」から「原田向バス停」で下車するというルートについても意見があった。これは、バスが本町田小学校の目の前に着くということ、薬師中学校の前の道は、朝、薬師中の子どももいれば、車道と歩道も分かれているので、道としては、多分鎌倉街道よりも自転車も少ないし、安全だと思うという話があった。

次に、バスから降りた後の道についても、基本的には「原田向バス停」で降りるという前提が考えられるとなると、降りた後の歩道が、ここは自転車が多く通るので、歩道の幅が広げられないか、降りた後にすぐぶつからないように何かできないかなど、対策をお願いしたいという話があった。実際、ここは今、工事がこれから始まるかもしれないところで、その工事と併せて何かできないかなというところも意見もあった。

あとは、バスに乗車中のマナーとしては、バスから降りた後に止まらないようにしてもらおうとか、バスから降りるときには事故が内容自分で自衛できるような対策もできないかという話もあった。

帰りの道としては、「今井谷戸バス停」で降りるときも、坂道の途中にあるバス停というのは、自転車がスピードをつけて下りてくるので、乗り降りのときにスピードのついた自転車とぶつからないように、例えばポールを立てるとか、ちょっとくねくねとしなきゃいけないような、スピードを減速できるようなものがあるといいなという話があった。特に朝の時間帯は高校生が多いので、近隣の高校にも、現在も自転車のマナー指導はやっていただいていると思うが、改めて統合して通学する人が多くなることも踏まえて、気を付けてもらえるよう指導してもらえたらという話があった。

2028年度以降で本町田東小の場所に行くというときには、「浄水場前バス停」まで、各世帯からどこを通過して「浄水場前バス停」に行くかというところはいろんなルートがあって難しいということだった。ただ、「滝の沢バス停」は待つ場所が狭いから危ないので、バスに乗る場合には「木曾中原バス停」か、「浄水場前バス停」だろうという話があった。

また、「木曾中原バス停」まで行ったら、もしかしたらそのまま歩いて行くのではないかという意見もあった。

町三小の学区から本町田東小に行くというときには、くじらやま公園あたりに住んでいる子は「体育館前バス停」から乗って「本町田バス停」で降りると思う。ただバス停までにどこで渡るかというところだが、町田高校前の通りを渡るのは、ここは結構事故があるから危ないから、1回鎌倉街道沿いまで出て渡ってもらうのがいいんじゃないかという意見があった。

次に、玉川学園との境のあたりについては、「養運寺バス停」から乗車するかどうかというところ、ここまで来ているなら歩くと思う、今も友達ともともと町三小に向かっているルートの延長なので、なかよし散歩道をそのまま行って、楽しんで行けるんじゃないかという話もあった。

「本町田バス停」で降りた後は、もし20人とか大勢が乗っている場合は、誰かが

見てあげた方がいいのかもしれないと思うが見守りの人をさらにそこに配置できるかは検討しないといけないかなという意見もあった。

もし「養運寺バス停」から「藤の台団地バス停」のルートで、下車した後は、団地内は行き止まりとかもあったりするので少し難しいし迷ってしまう子もいるのかもしれないので、恐らく少し坂を上ったあとの本町田東小の正門前の十字路につながる道になると思うという話があった。ただ、幼稚園の送り迎えが結構あるので車が多く通るから、そこもやっぱり気をつける必要がある。

あと、もし可能だったら、誰か一緒にバスに乗って、声かけをして一緒に降りるとか、そういったところも誰かできる人がいるならばいいという話もあった。

Cグループ

他のグループで出ていないところを中心にいくつかご紹介したい。

家庭などでのルールという部分で、決めた道を必ず通るようにするというようなお話をいただいた。

あとは、通学の時間帯だけはバスの本数を増やしてほしい、本町田小学校に行くときに「ひなた村バス停」で降りたとしたら、反対側の道路は道路工事が今進んでいるからコメダ珈琲側を歩くようにしたほうがいいねというご意見をいただいた。

あとは、2025年度は、木曽団地東の交差点で本町田小学校に向かうこと町田第三小学校に向かう庫人の流れがクロスしてしまうところもあるということで、そういったところの対応も考えていかなきゃいけないかなというご意見もあった

続いて、2028年度については、滝の沢周辺で一番のご心配としてあったのは、ここはバスがかなりたくさん来るし、いろんなところに行くバスが来るので、乗り間違え、バスがもう行っちゃったのかまだ来ていないのかとか、そういうことが分からないというのはすごく心配だなというお声もいただいた。バス停で、行くバスが今来ているか来ていないかとか、このバスに乗ればいいんだよとか、そういったことが何か分かるようなことができたらいんじゃないかというご意見をいただいた。

あとは、本町田東小のほうの最寄りのバス停は、自転車が通る時間帯は怖いねということと、学校の施設の面の検討でもお話がありましたけれども、学校の門の位置をどうするかということについてお話しがあった。

町田第三小学校側のこちらの南大谷に近いところでは、一番遠くなるような、地形的に低いところにあるようなほうでは、もうずっと歩いていく覚悟だというようなご意見もいただいた。先ほどのグループでもあったように、町三小まで歩いている、その延長線上でそのまま歩いていくというのが自然かなというお話もいただいた。

6 学校統合時の児童への配慮について

新たな学校推進課 (資料6説明)

委員 相談体制で相談員を配置してということですがけれども、これは今置かれているス

クールカウンセラーとは別に誰か専門職を置くということか。

新たな学校推進課 今、現状でもカウンセラーを配置しているので、引き続きご利用いただくというところ想定している。

委員 2の保護者とか地域の다가、本町田地区委員会がちょうど統合する3校の担当になっているということで、例えば3校がイベントをしたときに、3校の子どもたちが集まるのもある。あと、お手伝いで3校の保護者の方たちも一緒に活動するというようなことがある。

PTAのやり方も違うこともあるし、また、地域の協力の仕方の違いというものもあると思うので、もし可能なら、3校が一緒になる前に何か合同のイベントみたいなものを、PTAが共同で何か企画をして、それに例えば地域が協力をするような場が設けられたりして、何か事前にいろいろ交流できたりするといいなと思っている。

委員 交流の場については、今日まさにうちの娘は消防署に行っている、そういう機会をたくさんつくっていただいていることに本当に感謝している。

ただ一方で、子どもたちもイベントとかで短時間顔を合わせただけだと、やっぱりなかなか仲よくなれないなというのがすごく印象としてあって、その場にいるだけだと、会話するきっかけも生まれなかったり、名前を聞くところまでいかないみたいなのところがあったりするんで、1つの目的に向かっていくとか、場にいるだけじゃなくて、ちゃんと話すきっかけをつくるというような形での交流の場をどんどんつくっていただけるとありがたいなと思う。「あの子の顔は知っている」と「あの子の名前が分かる」というのでは入り方が違うかなと思う。

委員 2021年から徐々に交流を始めている。今のところ、本小と本東小の交流の考えでいるが、できれば統合する際の今の1年から3年生、この子たちにできるだけ交流の機会を持たせようと思って、今日は取りあえず訪れてみるというところだけだが、この先、生活科の授業で一緒にひなた村で秋を探そうをやってみようとか、それから、ひなた村を使って昔遊びを、一緒に授業をやってみようとか、来年は1、2年生合同遠足をやってみようとか、要するに、ショートの間ではなくてロングの間で子どもたちが関わられるようなことを、今いっぱい考えている。

あまり今の行事自体をいじらないでも授業の中でやっていけるようなことを今精選しているところなので、またアイデアがあれば出していただければと思ってる。

その後のことも考えて、町三小との交流も始めていく必要があると考えている。

委員 本町田町内会では、運動会、そして芸術祭ということで年間行っている。しかしながら、今、コロナ禍のために運動会も先日中止となった。本町田小学校で行っている芸術祭の折には、3校のお子さんの絵をお借りして、そちらで3校の作品を展示させていただいて交流を深めている。

皆さん、その学校の保護者の方、生徒の皆さんがおいでいただき、楽しく1日を過ごすような形を取らせていただいている。今はこんな感じで、コロナ禍のために実行できないが、そのような形で毎年やってきている。

委員

地域の方々には本当に子どもたちがよくしていただいて感謝している。ただ、残念ながら、今、土日は子どもの習い事が非常に多くて、なかなか参加したいけれどもできない子たちもいる。例えばサッカーなんかはレギュラーの問題とかいろいろあって練習に参加しないとレギュラーになれないよなんて子はそのような行事に参加が難しいというようなこともあったりする。できるだけみんなが平等に地域の交流、2校、3校の交流ができればいいなと思っている。

7 第10回基本計画検討会の開催概要

新たな学校推進課 次回、第10回の検討会につきましては、11月18日の金曜日、18時から本町田東小学校での開催を予定している。

会長

閉会あいさつ)